

- 議長（河野） 5番、森繁樹君。
- 5番（森） はい、議長。
- 議長（河野） 森君。
- 5番（森） 5番、森です。
- 議長（河野） 森君。
- 5番（森） それでは通告に従い、一般質問をさせていただきます。

「先進的な教育のために」。

令和7年度の施政方針のICT教育推進ですが、他の市町にない特色のある教育を推進してまいります、とあります。具体的にどのような計画であるかお聞きします。令和6年度に綾上小学校の児童を対象にプログラミング教室を実施し、好評だったことは喜ばしいことであります。令和7年度は他の学校にも拡充してとありますが、出張授業だけでなく、学校や地域の事情に合わせた継続的な取り組みを考えてみてはどうでしょうか。

自治体におけるAI教育の推進事例はいくつかあります。まず、先進的な自治体の事例として、茨城県つくば市、福島県会津若松市、そして兵庫県神戸市を挙げることができます。これらの自治体では、地元の大学やIT企業などと連携し、小・中学校の段階からプログラミングやAIに触れる学習の場を整えています。特徴的なのは、単に学校内で完結するのではなく、地域全体で“産官学連携”を行いながら、子どもたちの学びを支えているという点です。

次に、自治体がAI教育を強化する際の進め方ですが、まず大切なのは、学習指導要綱との整合性を考えた上で、「情報活用能力」や「問題解決力」の育成を柱に据えた全体ビジョンを策定することです。また、企業誘致や若者定着といった地域振興の観点を盛り込み、AI人材育成を戦略的に位置づけることが望ましいと思います。

さらに、授業を実践する教員の研修やサポート体制が欠かせません。企業や専門家による勉強会を行ったり、地域ICT支援員や学生ボランティアを授業に配置するなど、教員が安心して授業運営できる仕組みを整えていくことが重要です。

もちろん、教材選定と予算確保も大きな課題になります。GIGAスクール構想や総務省・文科省の補助事業を活用しながら、段階的に学年レベルを上げていく教材を整備していくと、児童生徒の理解度を無理なく伸ばすことが出来るのではないのでしょうか。

学習環境としては、施政方針にもあるように、1人1台タブレットを最大限有効活用しつつ、より高度なAI処理にはクラウド型学習プラットフォームを利用するのもいいのではないかと思います。GPUクラウド環境などを導入すれば、端末性能に依存しないスムーズなAI学習が可能になります。

次に、学習形態の工夫についてですが、ポイントは、プロジェクト型学習やアクティブラーニング、さらに出張授業後のフォローアップを組み合わせることだと思います。たとえば、地域課題をテーマに設定して、子どもたちがデータを収集・分析し、AIの助けを借りながら解決策を探る取り組みなどは、学びにリアリティを与える絶好の機会となりますし、企業からのメンタリングがあると、さらに深い学習が期待できます。

最後に、学習成果は学校の外や保護者に開かれた形で公開することも大切です。地域イベントやSNSを活用して、子どもたちが作ったAIの成果物や学習プロセスを発信すれば、地域ぐるみでの教育応援ムードが高まります。それが企業誘致や移住促進にもつながり、AI教育と地域活性化の好循環が生まれると考えられます。

以上のように、AI教育を進めるにあたって、教員研修とサポート、教材や環境整備、学習形態の工夫、そして成果の発信がカギとなります。出張授業で終わらずに、学校や地域の実情に合わせた継続的な仕掛けを用意することで、子どもたちの学びを未来につなげていくことができるのではないのでしょうか。

また、生成AI誘致企業のデータセンターが提供する高性能な計算資源やデータ分析能力を活かして、スタートアップ企業や中小企業が新たなビジネスモデルを構築するための支援とありますが、具体的にはどのようなことを検討されているのでしょうか。

経済産業省では、スタートアップと中小企業の連携支援を進めています。本町も生成AI誘致企業と地域企業をつなぐプログラムを設け、アクセラレーションプログラムやマッチングイベントの開催をし、AIやデータ活用を通じた新規事業の創出を支援できます。

また、政府は「GENIAC」プロジェクトでスタートアップ向けに計算資源を提供しています。本町でも、生成AI誘致企業の高性能GPUを活用し、地域の中小企業がAIモデルの試作やデータ分析を行える環境を整備することで、イノベーションを促進するなど、様々な可能性があると思いますが、本町の考えを伺います。

以上、2点よろしくお願いたいたします。

- 議長（河野） 前田町長。
- 町長（前田） はい、議長。
- 議長（河野） 町長。
- 町長（前田） はい、議長。
- 議長（河野） 町長。
- 町長（前田） ご質問にお答えをいたします。

ICT教育の推進において、まず、教育指導体制につきましては、教育委員

会が設置いたします情報化推進委員会により、町内全校が連携し推進に取り組み、全校を対象とした研修を実施しております。また、各校にはICT支援員を配置し、授業をサポートしております。令和7年度からは、香川県GIGAスクール運営支援センターが立ち上げられ、ソフトの利用など共通の情報交換ができるほか、児童生徒及び教員の異動に伴うアカウント等の県下統一により、事務軽減が図られる体制となっております。

次に、機器および教材等の段階的な整備については、令和7年度に人1台タブレットが更新され、新しい機器となります。また、この間、電子黒板を中学校に3台試験的に導入しており、令和7年度には、小学校においても導入予定であり、情報化推進委員会でとりまとめ、定期的に研究授業や情報交換を行い研修する予定であります。

AI教育については、町の企業誘致によるハイレベルな企業の進出は、町の財産であり、当該企業の協力、連携により特色ある教育が期待されております。2月には早々に綾上小学校においてプログラミング教室が開催され、子どもたちは目を輝かせ、技術および、その体験授業に魅了されました。今後、中学校を含め全校で様々なメニューを企業と連携し、計画をまいります。教育における生成AIの活用については、文部科学省が定めたガイドラインを基本とし、今後も情報収集に努め推進してまいります。

次に、AI開発用のGPUデータセンターとの連携したスタートアップ企業や中小企業が新たなビジネスモデルを構築するための支援については、まず、町において、(株)ハイレゾ香川による地域振興に資する事業として、職員向けAI研修を計画しており、これを行政のみならず、町内企業やスタートアップ企業にも広げていき、AIで何ができるのか、可能性はどんなものがあるかを学習する機会を設けることから始めていきたいと考えております。また、地域内でのスタートアップ企業同士の交流を促進することで、新たなビジネスチャンスを創出することも目指しています。

今後とも、企業と連携し、特色あるまちづくりを進めてまいります。

以上、答弁いたします。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○5番（森）はい、議長。

○議長（河野）森君。

○5番（森）はい。答弁ありがとうございました。

初めの方の、環境の整備については、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

今後の中学校含め、学校で様々なメニューを企業と連携し計画をまいりますとか、スタートアップというか企業も、可能性がどんなものがあるかという

のをお伺いしてってということなんでまだ具体的には何もということ。それはしていただきたいたいというのも、誰も反対する人いないと思うんで、今後もしっかり、餅は餅屋じゃないですけど、しっかり連携というか、協議して、教育にも産業にも、すべてにWin-Winになるようにしていただきたいたいなど、思っております。

何もまだ始まってないんで、何もこれ以上聞くことがないんですけど。弱いですかね。しっかりやっていただけたらと思います。

○いいまち推進室長（福家）はい、議長。

○議長（河野）福家いいまち推進長。

○いいまち推進室長（福家）はい。

○いいまち推進室長（福家）森議員のAIに関連したスタートアップ企業とか、関連企業が教育にも産業にも、良い影響を与えるというようなお話だったと思います。

町におきましても、ハイレゾの進出が決まってから、ちょうど思い起こせば、2年前とかについては誰もAIの可能性について語るものはいなかったと思っております。

綾川町にこういった企業が進出したことによって、新たな技術改革とか、地域の人たちの意識改革も生まれると思っておりますので、こういったところの契機を大事にして、今後進めてまいりたいと思います。以上でございます。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○5番（森）ないです。十分です。期待しております。よろしく申し上げます。

○5番（森）ありがとうございました。

○議長（河野）以上で森君の一般質問を終わります。